令和５年５月１９日(金)

盗むという学習法

授業を普通に受けているからといって、生徒の皆さん全員がすぐに成績が上がるわけではありません。先生方がどんなに手を尽くしても、生徒の皆さんが、自分を伸ばそう向上させようという意欲と自覚がなければ、あまり効果が上がりません。先生方の思いと皆さんの意欲と自覚とが一致して、初めて成績が向上していきます。

教育とは、教える・教わるということだけで行われるものではありません。例えばプロ野球やプロサッカーの世界では、先輩が後輩を教えるというようなことはほとんどありません。後輩といえども強力なライバルなのです。自分の持っている技術を教えて、後輩の方が上手くなってしまったら、先輩は自分のポジションを失い、チームを離れることになりかねません。ですから、プロの世界では、先輩は後輩に教えたがらないのです。そこで、後輩は先輩のプレーを見て、自分の力でそこから何かを学びます。これを「**盗む**」といいます。

歌舞伎（かぶき）の世界では、「芸は一代」といいます。芸名（げいめい）を世襲（せしゅう）しても、芸風（げいふう）までは受け継ぐことはできません。また、料理人の世界でも、先輩は後輩に見て学べと言い、最初は皿洗いや食材の下ごしらえだけさせ、直接先輩が後輩に教えることは少ないものです。つまり、芸事や調理の技術なども教わるものではなく、「**盗む**」ものなのです。「**盗む**」とは、教育される側、つまり学ぶ側の積極性の問題です。生徒の皆さんは、学習や部活動などの技術の習得に関しては、受け身の姿勢では無く、「盗む」ような積極的な姿勢で学び取っていきましょう。

しかし、実際に誰かの物を自分のものにしてしまう、誰かの物を盗む行為は窃盗罪（せっとうざい）という犯罪です。刑法上、窃盗罪は財産罪の一種であり、強盗罪（ごうとうざい）や詐欺罪（さぎざい）・恐喝罪（きょうかつざい）などと同様の領得罪（りょうとくざい）です。万引きなどの誰かの物を盗む行為は、絶対にしてはなりません。